

## 武蔵野市第六期長期計画策定委員会（第10回）

日 時：平成31年4月5日（火） 午後7時～午後9時2分

場 所：武蔵野市役所412会議室

出席委員：小林委員長、渡邊副委員長、大上委員、久留委員、栗原委員、中村委員、松田委員、保井委員、恩田委員、笹井委員

欠席委員：岡部委員

### 1 開 会

委員長の開会宣言の後、山本総合政策部長が着任の挨拶をした。続いて、異動のあったワーキングメンバー2名が自己紹介した。

### 2 議 事

企画調整課長が、配布資料の確認をした後、事務局が、参考資料「武蔵野市民意識調査報告書」「市政アンケート調査報告書」について説明した。続けて、緑・環境分野担当ワーキングが、参考資料「緑の基本計画（抜粋）」について説明した。

【委員長】 時間の節約のため、質問は委員会終了後に個々に事務局に伝えることとし、まず、この場で共有しておきたい質問を受ける。

【A委員】 市政アンケートの回収率6.3%は、余りにも低い。紙ベースの入力の手間も含めて、市政アンケートの意味と今後について議論したほうがいい。

一方、市民意識調査は極めて重要な調査だ。クロス集計は属性分析ばかりだが、重要なのは長期時系列の分析だ。例えば、満足度20位だったものが13位まで上がって、パーセンテージのポイントも上昇していたとすると、それは施策として有効性を持っていたと見ることができる。逆に、落ちているものは、施策の取り組みが無効もしくは時代の変化に対応し切れなかったということだ。長期時系列分析を委員会が閲覧できるサーバーにアップしてほしい。分析がまだであれば、過去の市民意識調査の満足度の推移を情報共有してほしい。

【企画調整課長】 過去のは直ちに情報共有できるようにする。

#### （1）計画案の検討スケジュール

企画調整課長が、資料2「第六期長期計画策定委員会 平成31年度スケ

ジュール」について説明した。

【委員長】 今後のスケジュールについて、委員から意見、質問をお願いしたい。

【B委員】 各部のヒアリングは、討議要綱作成前も作業部会という位置づけだったが、討議要綱を検討するために開かれた3回の作業部会は、公開しても何ら問題ないと思われるものだった。計画案の検討をする5月7日、21日、24日と、答申案の検討をする8月1日、8日は、作業部会という位置づけでなくてもよいのではないか。

また、今日は意見交換会の総括ということになっている。意見交換会でいただいた膨大なご意見について、今日一日、それも後半の時間だけで総括するには時間が足りないのではないか。

【企画調整課長】 計画案の検討は、討議要綱のときと同様、委員会としての議論をして案を練り、委員会で合意形成していただく。その際、発言の制約のない状況で議論していただくために作業部会という形をとっている。ただ、策定委員会で公開するというにすれば、考える余地はある。

意見交換で出された意見は、量が膨大で、全てに触れることはできないため、資料5にまとめた。特に意見が多かった部分や、まだ策定委員会で共有されていない項目について委員会で確認していただき、さらに委員として気になったところ、策定委員会での議論が必要なところを挙げていただいて、事務局で今後の進め方を検討したい。策定委員会の追加実施は難しいと考えている。

【副委員長】 財政計画、財政見通しは、どの段階で最終的なものが出てくるのか。

【企画調整課長】 財政計画の素案は、計画案に含めた形で4月26日の策定委員会を出す。今、財務部で作業中である。26日には若干の積み残しがあってもご説明させていただき、6月の公表までには最新のものを提供する。

【委員長】 作業部会について、私は、基本的には公開していいと思っている。ただ、これまでの作業部会はたまたま公開しても差し支えない内容ただけで、今後もそうであるとは言えない。傍聴者がいることで発言がしにくいということも、場合によってはある。そこは全く読めないで、計画案の検討も非公開の場で行うこととし、自由な発言をしながら計画案をつくって、計画案公開後、皆さんからのご意見をいただくということでもよいのではないか。予定どおり作業部会とさせていただき、引き続き積極的に意見を

出していただきたい。

【B委員】 公開、非公開にかかわらず、意見が違えばぶつかり合うことはある。委員会の議論は、皆さんに聞いていただくことに意味があると思う。

私は、委員会の回数を増やしてほしいとお願いをしたのではない。4月26日の回で、今回の意見交換会の総括も含めた組み立てにしてもらえるなら、時間的な余裕もできるし、意見交換会でいただいた意見について、私も考えて話し合いに臨める。

【委員長】 今日一日で終わらない場合は26日の第12回策定委員会で議論する。

【委員長】 4月23日の市長との意見交換会は2時間、予定されている。これは、市長が1時間話して、残りの時間で私たちからお聞きするということか。

【企画調整課長】 市長との意見交換は75分ほどを予定している。討議要綱と、市民の方からいただいた意見を踏まえ、策定委員会から市長に対して確認したいことなどを聞いてほしい。

## (2) 討議要綱に対する意見の総括

企画調整課長が、下記資料について説明した。

- ・資料3-1 「討議要綱に関する市民意見交換会等の実施結果」
- ・資料3-2 「第六期長期計画討議要綱各種意見集約表」
- ・資料4 「無作為抽出市民ワークショップの実施結果概要」
- ・資料5 「市民意見等を踏まえて議論・確認が必要と思われる事項」

【委員長】 無作為抽出の市民ワークショップでは、興味深い意見が出ている。

今日は、資料3-2にある意見を計画に入れる、入れないについて議論するわけではない。一連の意見交換会を通して各委員がどういう印象を持ったか、または今後の計画づくりにどう反映していけばいいかについてお話しいただきたい。

【C委員】 意見交換会では、強い意見のお持ちの方が、自分の関心のある分野の意見を強くおっしゃっていた。ただ、そのバランスを見ながら計画に書き込むにはどうしたらいいのか困惑している。

理念的な部分は、市議会議員との意見交換で多少出てきたと思う。具体的な施策は、市民の皆さんから出ていたという印象を持っている。

【A委員】 3カ所で開催した圏域別市民意見交換会は、参加者が余りにも少ない。この参加意識の低さは問題であり、いかにたくさんの方に興味をもってもらうかを大きな目的にせざるを得ない。逆に、関係団体別意見交換会は、意見のある方が来ていた。出された意見には、バイアスがかかっていたと思う。バイアスのかかった意見と、掘り起こせていない意見とがあるとき、民主主義的には意見として出されたもののほうを取らざるを得ないのかもしれないが、それは全体のバランスとしてどうなのか。

また、行・財政分野で感じたことだが、なぜ市民の皆さんが武蔵野市の行財政に対してこんなにも不安なのか最初から最後まで全くわからなかった。皆さんは、マスメディア等で報道されているとおりの財政破綻というワードから、武蔵野市も同様だと見ているのではないか。武蔵野市は財政的にゆとりがあり、だからこそいろいろなチャレンジができる。それがこのまちの魅力だという、市民における今の認識ギャップを埋めるようなメッセージを市から発し切れしていないようだ。ただ、無駄遣いはするなという市民からのメッセージは受けとめて、反映していきたい。

【D委員】 意見を言う市民の方はもちろん議員の皆さんも、長計に載ることに重きを置いているように感じられた。私は以前、「長計に載っていないからやらないということがあるのか」と質問し、事務局からは、そんなことはないというお返事をいただいた。計画に載せてほしいことがある人は、一生懸命意見を言う。それに対して市は、何かの計画をしないことの言いわけとして「長計に載っていないから」と言う。これを本当にやめないと、広い意見は来なくなるのではないかという気がした。

【B委員】 私も、ふだんは意見を言う側にいるので、意見を言われる立場に立ってみて、とても緊張した。自分はまだまだ全然知らないし、勉強が足りないとも思った。私がこれまで考えていなかったことを聞くことができたし、障害を持っている方のご家族の声をじかに聞けて、とてもありがたい時間になった。

【副委員長】 理念的なものから具体的なものまで、様々なご意見をいただけたことは、とてもありがたかった。

圏域別意見交換会に来た人が少なかったことについては、私はA委員の意

見と若干違う。そもそも意見交換会という場に、問題意識や関心のある人以外は来ない。ポイントは、問題意識や関心のない人の意見をどう掘り起こすかだ。

いただいたご意見には、計画に書いてあることが全然できていないという現実の部分と、こういう発想がないという指摘の両者がある。前者は実行の部分なので、策定委員会がどれだけすばらしい計画をつくってもだめで、中でもそれを一番感じたのがインクルーシブ教育の部分だった。なぜ書いてあることができていないということが起きるのか。それは計画の問題なのか、実践の問題なのか、計画の書き方の問題なのかを考える必要がある。

無作為抽出市民ワークショップは、来て話しながら問題を感じるという形であり、一見関心のない方から出された意見から見えてくるものが興味深く、参考になった。意見交換会は、問題意識があり、意見を言いたい人たちが来る。無作為抽出市民ワークショップと対比させることで、ある程度の全体像が見えてくる。意見の中身だけでなく、方法の違いで見えてくるものがあることを、膨大な資料を眺めながら感じた。

**【E委員】** 圏域別の市民意見交換会より関係団体意見交換会に多くの方々に来ていただいたのは、直接的、間接的に武蔵野市政に関心を持ち、協力、協働をされている人たちが積極的にご参加いただいたということだと捉えている。パブリックコメントも数多く寄せられたし、無作為抽出のワークショップも非常に積極的にご参加いただいた。ただ、職員アンケートで専門的かつ辛辣な意見が多かったことを重く受けとめている。どれも実際に業務を担当した上での意見だった。もちろん市民の意見も重く受けとめるが、計画を実行するエンジンとなるのは職員であり、関係団体の市民の皆様なので、取り扱いについて、庁内でのブレインストーミング的な意見交換の必要性を認識している。

**【F委員】** 関係団体の意見交換会にいらした方々は、計画論もさることながら、現状をしっかりと把握しているという印象を持った。

圏域別の意見交換会は、以前はもう少し参加者が多かったのですが、関心が薄れてきたところがあるかもしれない。参加者に若い世代がいないことをフォローするために無作為抽出市民ワークショップを行ってご意見をいただいたが、関心事の問題もあると思われる。

今回、議会とは、全員協議会形式ではない意見交換をしたことが大きな特徴だった。討議要綱の段階でもあり、意見のキャッチボールができたのはよかった。

長期計画は、職員参加でもある。自分の意思を示すというのは職員にとっても大事なことであるので、寄せられた意見を計画にどう反映させていくかが重要だと感じている。

【委員長】 私も、この計画のあり方についてはD委員と全く同じように思っている。計画をどう捉えていくのかを改めて感じた。

意見を言うてくださる方は、計画に載らないと何もしてもらえないという思いが強い。職員が長期計画を何かをしない言いわけにしているところがあると思う市民はおられるし、私もそう思う。そのことをよく考えて、今度の計画を世に出していく必要がある。構成のあり方も、もう一回考えなければいけない。

市議会議員との意見交換は、第五期長期計画・調整計画のときに厳しいと感じたのだが、今回は、会派内で話し合ってくれたと思われるところがあり、好印象だった。他の会派の話を傍聴して、違う立場で見るということをしているのもよかった。ただ、終わった後にも意見を言いに来た議員がいた。決められた時間外に意見を言うのはルール違反だと思う。

専門家の方々が、専門的な見地を根拠に市の政策なり今までのあり方に対して意見を言う場面が何度かあった。専門的な話になると、双方でどんなに科学的根拠を出しても、最後は「神々の争い」のような話になる。それに対して説得力を、どう計画に出していけるか。まだ説得力のある材料を出せていないことが気になった。

計画の逃げの部分と関係してくるが、例えば、女子大通りの問題になったときの答えは、「都の問題です」だったが、そういう答え方でいいのか気になった。外環の問題も含めて、都の政策を市は支持して積極的にやっていくのか、そうではないのかを投げってしまうのは、余りに無責任に見える。例えば、女子大通りの歩道が非常に狭くて危ないから、市としては拡張する方向性をとっていきたいというようなことは、どこかで確認していると思う。市はそういう説明ができないといけないのではないか。説得力のある市の説明を求める市民の方たちに圧倒されつつ、だからこそ市もきちんと答えていかなければいけないと感じた。

【G委員】 私は、委員長、副委員長から第五期長期計画・調整計画の話を聞いて、健康・福祉分野は市民の関心の高い領域でもあり、介護保険などの意見がもっと出るのではと不安だったが、予想よりも意見が少なかったというのが正直な感想だ。介護は非常に重要な問題であり、自己負担の問題にしても、武蔵野市は保険料が高い問題にしても、ほとんど議論としては出なか

った。武蔵野市の福祉や健康に関する行政施策のレベルが、ほかの市町村からすると相当高いので、満足度も高いのかもしれないと思っている。

市議の皆さんは、制度をよく理解されているためか、質問が余り来なかったし、市民の皆さんからは、むしろ子育てや環境、緑の問題などのほうが切実なようで、いろいろな意見が出ていた。

今回迷ったのは、子ども・教育の子どもの部分と、福祉という部分のカテゴリー分けだ。副委員長が答えてくださったが、ほとんどの意見は子育てのほうに向いていて、どちらかというとなら福祉という概念ではなかった。第六期長期計画では、子どもの問題は従来の福祉という概念で捉えてはいけなと感じた。

健康・福祉分野は、税負担だけではなく社会保険料というもう1つの財源がある中での話だが、財政のところでも意見が余り出なかった。そこを第六期長期計画でどう扱えばいいのか、少し迷っている。

外国人に関する課題も、従来の「国際交流」や「福祉」という概念では捉えられない市民生活そのものという領域に入っている。その他にも行政の皆さんが、従来の行政施策の延長で語っていらっしゃる福祉施策の中身は、既に現実と少しずつ来てきている。例えば、「貧困」イコール「低所得者」というイメージや、「共生」イコール健全者と障害者の共生のようなことをイメージしてしまっている。現代的な「貧困」は、所得の多寡だけではなくて、生活のしづらさみたいな部分からスタートしている。お金はあるが、「要生活支援者（生活のしづらさを感じる）」という人たちに対して、従来の行政の福祉の延長では、自己負担でやってくださいという話にしかない。10年先を見越して、従来の福祉という概念から少し外れて、所得はあっても高齢者の単身世帯であって生活支援が必要な方々の増加を武蔵野市としてどう捉えるかという視点が要るのではないか。

【C委員】 武蔵野市らしさについて、この計画はどこでも使えますよね、みたいなことを言われたのが印象的だった。どこに持っていても同じということは、武蔵野市の独自性が見えにくいということだ。文化・市民生活でいえば、コミュニティづくり、コミュニティのあり方にも言える。皆さんは、口をそろえて、疲弊していること、新しい担い手が入ってこないことをおっしゃるが、そうは言っても行政や非メンバーが介入するわけにはいかない。利用者は「敷居が高い」、「そんなに関与できない」と言う。そういう難しさがある。コミュニティづくりのあり方だけでなく、武蔵野市らしさみたいなことは、この計画案をまとめるときに、もう少し話をしておいてもいいのではないか。

【委員長】 武蔵野らしさは、武蔵野市らしさとして理解されていないかもしれない。コミュニティセンターのことも、知っている人は知っているが、知らない人は、公民館とどこが違うのかぐらいの認識だ。武蔵野市で考えるコミュニティとは違って、理解されていない部分があるような気がする。

【A委員】 社会心理学で言う内集団バイアス（客観的以上に自分たちの集団の強さを意識して極化していく現象）は武蔵野市にもあっていいと思う。それが市民としての意識であれば、まずはそこを明確にする必要がある。ただ、それには専門委員会なりをつくって、議論から要素を抽出していかなければならず、長期計画では問題提起をするにとどまらざるを得ないという限界がある。

同時に、無作為抽出のワークショップは、1,500名ほどに案内を出して、定員60名のところに90名以上の応募があったが、圏域別意見交換会は余りにも人が集まらなかった。案内が来なければ、自分ではない誰かが行ってくれるという傍観者効果が出たと思われる。職員は、働き方改革を考えていかなければいけないときに休日を返上して準備等をしている。ワークショップに代替する意見聴取の方法について、第七期長期計画に向けてノウハウをためていかなければいけない。武蔵野市は市民自治をうたっているのであれば、その市民自治の根幹となるものをどう継承していくかだ。

行・財政分野は、市民の方から余り意見が出てこなかったが、職員からは、とてもいい意見が寄せられた。ただ、本来なら、長計の討議要綱が出て職員意見が出るのではなく、まず職員の意見を集約した、討議要綱のようなものが委員会の場へ上がってこなくてはいけないという苦言は呈しておきたい。

個別具体の話では、女子大通りについての意見が2つの正論に分かれていた。長期計画を策定するこの委員会で、個別具体の話に対してどういう方向性を打ち出せばいいのか、悩ましいところだ。

【D委員】 意見集約表では、職員の方が市民自治、市民参加、協働、自助・共助に関して結構意見を出していた。それらを見ると、市民側もここまでしなければいけないのかと感ずることがある一方で、協働に取り組もうとしても「市民の方はここまで」と市から言われる部分もある。計画案づくりでは、そういったところも整理していけたらいいのではないか。

【A委員】 職員意見に、「市民から言われたことに正論で返すとすぐ苦情になる」、「市職員が市民に対してへりくだり過ぎる」というコメントがあった。市職員は、市民とともに武蔵野市を運営していく者であって、市民が上



ということではない。職員も、おかしいことはおかしい、できないことはできないと言っていい。一方で、「長計に書かれていないからできない」という逃げ方をするのではなく、「それは財政的に難しい」、「不公平感が出る」、「あなたにとっては是かもしれないが、社会全体では是とは言い切れないので行政としては取り上げられない」と、正々堂々と議論していいのではないか。それに対して不満が出たら、不満処理という形で、市役所内で対応について検討をし、正確な対応とは何であるかの結論を出していけばいいことだ。

【委員長】 私たちは、専門の領域を持っているが、長期計画の担当分野の専門家ではない。あくまで市民レベルだ。その市民である策定委員が意見交換会の場で答えるのは変だと第五期長期計画・調整計画のときから思っていた。結局、策定委員が職員の盾になってしまっている。この方法自体がいいのかどうかは、よく考えなければいけない。

職員も自治体の職員として市民と対等に関わっていくというA委員の意見に私も大賛成だ。協力し、きちんと正面から議論して、下手な逃げ口上をしないことこそが、いいまちをつくっていく基本になる。5年、10年先に何が課題として出てくるかはわからないが、そういうことに対応していけるようなことを計画に書いておきたい。そもそも長期計画とは何なのかという理念的な部分や、変化の激しい時代にあつての職員と市民のあり方みたいなこと、この計画自体を逃げ口上にはしてほしくないという趣旨のことは、書いてもいいのではないか。

【B委員】 私は市民会議から選ばれているので、当初から、計画のつくり方は誰が決めているのかと思っていた。市民会議をどう形づくり、その中でどういう議論をして、どういう形で委員を選ぶのか。計画のつくり方について、市民自治や市民参加あるいは協働を進めるという視点で議論をする場がない。「基本的な考え方」にあるように、行政は計画にのっとって市政を運営していく。その計画づくりのプロセスや市民参加のあり方について丁寧に話し合う必要がある。

市民意見等を踏まえて議論、確認が必要と思われる事項は、資料5以外にも幾つかある。特に、上下水道の問題は、東京都への一元化を進める形で、さきの計画から方針が出ているが、なぜ上水道は東京都へ一元化する方針をとっているのか、どのくらいお金がかかるのか、市民負担はどうなるのか、どんなリスクがあるのか、きちんと市民に示す必要がある。市民と一緒に決めていくプロセスを踏めているのか、疑問だ。

そういうことも含めて、必要と思われる事項の中に入っていない項目など、

これらを短い時間の中で、この委員会で考えていかなければいけないとすると、やはり時間が足りない。

【副委員長】 私は、個別計画をつくる側に回ることが多かった。長期計画には具体的に書いていないことを個別計画に書いている。例えば昨年、私は健康福祉総合計画にかかわったが、第五期長期計画・調整計画のときには自殺対策の話は一切なかった。でも、今は自殺対策の話を地域福祉総合計画などに書いている。これは理念的にも十分関係しているし、必要だからこそ、長計には具体的に書いていないものも書き込んでいる。長期計画で一番大事なものは理念で、理念的に妥当であれば、長期計画に具体的に書いていなくても、市は何らかの形で反映させることはできる。女子大通りの問題のように、両方の言い分があるとなると難しさは生じるが、職員も疑問に対する説明責任を果たす必要がある。

市民の意見は分野別の縦軸に沿っては出されない。だからこそ個別具体的で、横断的なものが多い。例えば、資料5のアニマルウェルフェアと外国人支援のあり方は、「他分野も含む」と書かれているが、この二つだけには限らないと思っている。学校の先生が足りないという話は、財政にもかかわるし、学校教育にもかかわるし、多忙化の部分では福祉人材のところにもかかわる。そういった意見は、我々が縦割りにほめるよりは、横の調整をどうしていくのかだ。これまでいただいた意見があり、今すぐ計画の策定方法は変えられないので、それはいずれ反省会をすとして、今はいただいた意見を横と縦の軸で整理しながら、どこまで計画として考えるか早目に議論する必要がある。

これまでの意見は、市政を監視してきて意見を出された側と、よくわからないがとりあえず案をつくらざるを得なかった委員側で、若干のずれがある。この議論を市の職員の方々にしっかり受けとめていただいた上で、この多様な意見を吸収するフレームを我々が考え、それが実際に動く状況にしていかなければいけない。いろいろな意見を聞いたことはとても勉強になり、次の段階に来ていることを感じた。

【G委員】 長計は10年後を想定しているが、例えば、防災で、この10年以内に首都直下型地震が「起きる」という想定で書くか、「起こるかもしれない」と書くかで全然違ってくる。確実に起こるから、その対応をとなると大変なことをきちんと計画しておかなければいけない。外国人支援のあり方も、外国人労働者が増えているということとして捉えれば、また違う話になるし、アニマルウェルフェアも高齢化に伴ってペットの面倒が見られなく

なり、そのまま飼い主がいなくなるということは高齢化の問題と結びついてくる。職員の働き方では、ICT等の進みぐあいによって業務の省力化、生産性の向上が図られる。我々が想定する時間軸は、どれぐらい社会が変わっていくかを共通認識した上で議論する必要がある。

【E委員】 長期計画の位置づけが、第一期長期計画や第二期長期計画の時代と大きく変わっている。恐らく当時はこれほどの詳細な個別計画はなかった。個別専門的な計画がある中で、長期計画の位置づけと策定方法を、第七期長期計画に向けた課題として見直したほうがいいのではないかと。

今回、健康・福祉分野の意見が市民からなかなか出なかったのは、昨年度に第3期健康福祉総合計画や介護保険事業計画、障害者福祉計画を策定し、その過程で、この長期計画の市民意見交換会以上にヒアリングや懇談会を開く形で積み上げてきたため、それらの個別計画に意見や要望が一定反映されていると理解されているからではないか。

長期計画には記載がないことでも、個別計画にあるものもあれば、施政方針にあるものもある。今年度予算化したもののうち、特徴ある新規事業は23、拡大充実する事業が31ある。国の構造改革特区を活用した児童発達支援センターの設置や、保育園のおむつの回収は、新たな市民ニーズとして出てきた課題として取り組んでいる。計画に書いていないから取り組まないという姿勢ではないが、ご指摘の通り個別の対応として、「計画に書いていない」を言いわけに使っている可能性も否定できない。その場合は丁寧な説明が必要だと認識している。

長期計画は、分野横断的な課題を整理して、基本的な方向性だとか基本方針、5年後、10年先を見越した武蔵野市のビジョンみたいなものを重点化する計画という位置づけにするべきと思う。今日事務局から出された資料にあるものを全部長期計画に入れるのかという話もしなければいけない。その意味でも、B委員が言うように時間がない。資料5の事項に優先順位をつけ、長期計画として取り上げるべきものと、個別計画で議論すべきものという整理をする必要がある。

【F委員】 今、E委員と同じことを私も思っている。長期計画は調整計画を含めて5年に一度なので、そこに個別的な計画が位置づけられれば良いという印象を持っていた。各分野の基本計画は市民参加をしてもらい、専門の委員の先生を招いて議論して施策事業を体系化するという形でできているが、長期計画の第一期、第二期のころは分野別にはなっておらず、コミュニティ構想にぶら下がる6大事業をまさに先生や職員や市民と一緒につくっていた。

細分化が進んだ今、長期計画について、法律があり、基本計画があり、細かい実施計画がある中で、何を捉えて横串で貫くのが大きなテーマになる。

【G委員】 今の2人の委員の話は、ここ30～40年の医療政策と似ている。医療政策は専門分化が進み、その結果、眼科医は眼しか診られないし、循環器医は循環器しか診られないようなことになった。でも、医療は1人の人間の健康や幸せを考えるものだ。武蔵野市が一人の人間であるとする、この人間の健康や幸せをどう考えるのかがあって、長期計画も、そのように考えることができる。専門性を高めるために専門分化することは必要だが、結果として、全体を見られなくなる。国政でも各省庁に細分化した結果、全体を見えている人は少ない。市のトップである市長も、長期計画を仕切る総合政策部も、専門分化したものの全部を詳細に把握できていない。長期計画は、武蔵野市の市民と共有するという意味において、全体を貫くものとしてまとめ上げなければいけないという気がする。

【委員長】 私も、部局の枠組みの中で「長計に書かれているから」という言いわけにされる長計のあり方の意味を考えてしまう。個別に詳細な計画が書かれて、その下に事業があるというときに、長計で最後に書いておかなければいけないことは何なのかを考えなければ、第六期の長期計画は、第五期の長期計画を踏襲した形になってしまう。どうまとめ上げていくのかを考えるのが、今ではないか。とりあえずは皆さんのご意見と、個別にいただいたご意見も含めて一度分野ごとにまとめ、委員とワーキングで作業を進めていくこととするが、フレームワークを変えるのか、横断的な書き方をするのかという、全体を俯瞰して見直す作業もすることになる。方向性は共有できているようなので、あとはそれをどういう形にまとめるかだ。

これまでの討議要綱は、多くの人に読んでいただけるように、大部にならないように文字数や文字サイズを検討したが、IT社会においては、容易になったリンクを使って、アプリの形で長期計画をつくることもあり得る。私たちが考えたり思ったりしてきたことを表現する形で、最終的なものにしていきたい。

### (3) その他

企画調整課長が、資料6「第六期長期計画の構成(案)」について説明した。

【委員長】 この構成(案)も含めて委員各位もよく考えていただきたい。

企画調整課長が、4月16日（火）に開催される作業部会（各部ヒアリング）について説明した。

【D委員】 無作為抽出市民ワークショップで出された六長のスローガンについては報告がなされたが、委員会での検討は、いつか。

【企画調整課長】 4月26日に事務局が、資料6の「ビジョン（目指すべき姿）、基本目標」のサブタイトル的なものとして案を出し、委員会で検討していただくことを想定している。

委員長の閉会宣言により第10回武蔵野市第六期長期計画策定委員会を閉じた。

以上